

技能学習の動機づけ

速水敏彦 潘益平¹⁾

問題

これまで児童・生徒の動機づけ研究といえば、教科学習への動機づけを意味していると考えて、まずまちがいがなかった。確かに児童期、青年期において学業達成は中心的課題ではあるが、彼らの動機づけの向けられる方向がこれだけでないこともまた事実である。

本研究では学校外での学習としてのいわゆるお稽古ごと(ピアノ、習字など)を技能学習としてとりあげ、その動機づけについて検討しようとする。筆者の知る限りこれまで、この種の心理学的研究はほとんどない。杉江・伊藤(1986)は調査により「小学6年生になると、個々のけいごとと塾から学習塾へその比重が移行する」ことを明らかにし、さらに通塾者の当該塾に対する態度などについても検討している(杉江・伊藤, 1989)。しかし、動機づけとの関係はほとんど扱われていないように思われる。

ここでは技能学習の動機づけを総合的に検討しようとする。すなわち、学習を開始してからやめるまでを視野に入れて動機づけ要因を探ろうとする。そのため、お稽古ごとのような技能学習をおおた終了していると思われる年齢層に焦点をあて、回顧的に尋ねることになる。この方法に問題がないわけではないが、まずこの方法を用いて技能学習の動機づけのアウトラインをつかみたい。

ところで、技能学習といっても珠算のようにグレードが明確なものとそうでないもの、ピアノのように親の経済的、心理的援助がかなり必要なものとそうでないものがあり、技能学習の種類によって動機づけのされ方は異なるように思われる。そこで、本研究では第1にいくつかの技能学習ごとに動機づけ要因のみならず、関連する要因に関してもそれぞれの特徴を明確にしておこうとする。具体的には学習開始時期、終了時期、学習年数、学習開始理由、学習初期、中期、終期の練習の楽しさ、

学習初期、終期の練習の積極性、学習初期、終期の正、負の動機づけ要因、学習終了の理由、終了後の自発的練習、技能向上の帰属要因、技能学習したことの意義などについて検討する。

第2は学習初期および終期の動機づけ要因に焦点をあて、これらが学習年数、学習の楽しさ、練習の積極性などどのような関係にあるのかを明らかにする。ここでいう技能学習は学校での勉強と違って義務ではない。だからといって子どもが自発的に学習し始めるということはほとんどなく、多くの場合は親が学習するようにしむけることが多い。そういう意味では学習初期の時点で子どもたちの内発的動機づけが極めて高いとは予想しがたい。しかし、周囲からの何らかの働きかけや進歩を促すような誘因が提供され、努力が傾注される過程で内発的動機づけも育っていくものと思われる。したがって、特に技能学習の場合には周囲の賞賛や期待といった外発的な要因が学習過程に重要な影響を及ぼしていると考えられる。

方法

被験者 大学生男子380名、女子315名

調査内容 調査内容は付表のとおりであるが以下に要点をまとめる。

A1・A2 : 所属および性別

B1 : 経験した技能学習の種類 結果は表1のとおりで

表1 各技能を学習した人数

	絵	ピ	バ	珠	習	水	剣	野	他
男	38	78	1	241	271	126	24	15	63
女	36	235	6	243	254	104	5	0	98
合計	74	313	7	484	525	230	29	15	161

注) 絵-絵画, ピ-ピアノ・エレクトーン,
バ-バイオリン, 珠-珠算, 習-習字,
水-水泳, 剣-剣道, 野-野球

1) 現所属は南京師範大学(中国)

技能学習の動機づけ

あり、絵画、バイオリン、剣道、野球を習った人は相対的に少ない。ピアノ・エレクトーンは女子の場合、半数以上が習っているが男子は少ない。

B2：ここで回顧する技能学習を1つ選択させる。本研究では回答者が相対的に多かったピアノ・エレクトーン(152名)、珠算(203名)、習字(186名)の3種類について整理する。

B3：これ以降はある技能学習についての回答であり、まず始めた時とやめた時を記入させた。

B4：習い始めた理由 ①親の方針 ②自分の意志 ③他の子が習っていたから ④兄や姉が習っていたから ⑤その他のうち該当するものを選ばせる。答えは1つとは限らない。

B5：練習の経過(初期、中期、終期)における練習の楽しさ。折れ線グラフで表現させたがスコアリングの時は「非常に楽しい」の線上なら9、「非常に楽しい」と「楽しい」の間なら8、「楽しい」の線上なら7、「楽しい」と「ふつう」の間なら6、「ふつう」の線上なら5、「ふつう」と「つまらない」の間なら4、「つまらない」の線上なら3、「つまらない」と「非常につまらない」の間なら2、「非常につまらない」なら1を与えた。

B6：初期の練習の積極性 ①自らすすんで練習する機会が多かった ②強制されて仕方なく練習する機会が多かった ③練習しなかったのうちから1つを選択させる。

B7：練習初期にやる気をおこさせたもの、基本的には以下のそれぞれの正の動機づけ要因について3段階評定させる。①先生からの賞賛、②親からの賞賛、③コンクール、競技会、試合への参加、④グレード(級)の向上、⑤やること自体のおもしろさ、⑥技能が向上すること自体の喜び、⑦仲間からの承認、⑧先生からの期待、⑨親からの期待、⑩その他

これらの要因は整理の段階では以下のような4つのカテゴリーに分類する方法も用いた。Ⅰ. 正のフィードバック要因①②⑦、Ⅱ. 正の競争要因③④、Ⅲ. 正の内発性要因⑤⑥、Ⅳ. 期待要因⑧⑨

B8：練習初期にやる気をなくさせたもの、B7と同様以下の負の動機づけ要因について3段階評定させる。

①先生からの叱責、②親からの叱責、③コンクール、競技会、試合への参加、④グレード(級)の停滞、⑤やること自体のつまらなさ、⑥技能が向上しないこと自体のつらさ、⑦仲間からの軽蔑、⑧親による練習の強制、⑨先生による練習の強制、⑩その他 これらの要因は整理の段階では以下のような4つのカテゴリーに分類する方法も用いた。Ⅰ. 負のフィードバック要因①②⑦、Ⅱ. 負の競争要因③④、Ⅲ. 負の内発性要因⑤⑥、Ⅳ. 強制要因⑧⑨

B9：終期の練習の積極性、B6と同じ項目

B10：練習終期にやる気をおこさせたもの、B7の項目と同一

B11：練習終期にやる気をなくさせたもの、B8の項目と同一

B12：やめた時のグレード(級)

B13：やめた理由 ①他のことで忙しくなったから、②いやになったから、③親にやめるように言われて、④これ以上うまくならないと思ったから、⑤その他のうち該当するものを選ばせる。

B14：やめた後の練習 ①しばしば練習した、②時々練習した、③ほとんど練習しなかった、④全く練習しなかったのうちから1つを選択させる。

B15：以下の技能向上と関連する要因について3段階で関連性を評定させる。①本人の能力、②本人の努力、③親の指導、④先生の教え方、⑤先生の人柄、⑥塾の雰囲気、⑦仲間の技能水準、⑧本人の興味・関心、⑨運

B16：技能学習したことの意義 ①時間とお金の無駄使いであった、②後悔はしていないが特に有意義だったとは思えない、③練習を通して間接的に得られるものはあった、④技能を学習したこと自体大いに有意義であったのうちから1つを選択させる。

結果と考察

Ⅰ. 各技能学習ごとの単純集計結果

B3の学習開始時期については表2-1に、終止時期については表2-2に、さらに学習年数については表2-3にまとめた。

ピアノ・エレクトーンの開始時期の幅は極めて大き

表2-1 学習開始の年齢(%)

年 齢	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
ピ ア ノ ・ エレクトーン	0.0	7.2	13.2	23.0	17.1	20.4	9.9	5.9	2.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.7	0.0
珠 算	0.0	0.0	0.5	0.0	1.5	10.3	20.7	43.8	19.2	3.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.5
習 字	0.5	0.0	4.3	5.9	19.4	32.8	16.7	14.0	4.8	0.5	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0

資 料

表 2-2 学習終止の年齢 (%)

年 齢	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
ピアノ・エレクトーン	0.7	0.7	0.0	0.7	0.0	2.0	6.1	5.4	14.2	7.4	15.5	19.6	5.4	9.5	11.5	0.7	0.0	0.7
珠 算	0.0	0.0	0.0	0.5	2.0	2.0	9.4	16.3	60.9	6.4	1.0	1.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0
習 字	0.0	0.0	0.0	0.6	2.7	5.5	8.2	11.5	38.8	12.0	4.9	10.4	1.6	0.0	2.7	1.1	0.0	0.0

表 2-3 学習年数 (%)

年 数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
ピアノ・エレクトーン	2.0	3.4	4.1	6.1	10.8	6.1	12.8	10.1	8.1	7.4	14.9	6.1	2.7	2.7	2.0	0.7
珠 算	12.4	30.7	29.2	17.8	5.9	2.5	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
習 字	6.0	9.8	14.2	17.5	17.5	11.5	4.9	7.1	5.5	3.3	1.1	1.1	0.0	0.6	0.0	0.0

い。すなわち、3歳から15歳まで広がっている。しかし、14、15歳の2人はやや例外的で3歳から10歳までくらいとみるのが妥当だろう。特に5歳から7歳までの就学前後で開始される場合が多い。終止時期についてもかなり幅があるが、特に2つの時期、14、5歳と17、8歳でやめる場合が多いといえよう。これは高校入試、大学入試と重なる時期と考えられる。当然の結果として学習年数の個人差も大きい。しかし、5年未満や13年以上という人は少ないといえる。

珠算の開始時期は40%以上が9歳となっている。この時期は九九がほぼ完全に習得された時期と考えられる。前後の8、10歳を含めれば、80%以上がこの3年の間に開始することになり、個人差の幅は小さいといえる。終止時期についても60%が12歳でやめており、小学校6年までに9割以上がやめると考えられる。学習期間は2年から3年が最も多く、5年以上続けている者は1割にもみえない。

次に習字の開始時期に関しては先の珠算の場合よりも幅がある。しかし、8割以上が小学校低学年までに開始するといえる。終止時期も珠算に比べると幅があるが15歳まででほとんどがやめており、高校になってからも続けている者は極めて少ない。学習期間は3年から6年までが多くなっている。

B4の習い始めた理由については表3に結果が示されている。これは選ばれた項目が必ずしもひとつでなかったこともあり各項目毎で全体に対する選択された割合(%)を示したものである。予想されるとおりどの技能学習でも「親の方針」が多く選択されているが各技能学習での特徴もみられる。すなわち、ピアノ・エレクトーンでは「自分の意志」で始めた人もかなりいる。珠算で

表 3 技能学習の開始理由 (%)

	親	自分	他人	兄弟	他
ピアノ・エレクトーン	40	36	13	17	5
珠 算	37	14	43	20	3
習 字	48	16	25	21	2

表 4 各時期の楽しさの程度

	初期		中期		終期	
	平均	SD	平均	SD	平均	SD
ピアノ・エレクトーン	6.33	2.19	4.98	2.52	4.99	2.43
珠 算	5.75	1.97	5.31	2.13	4.46	2.38
習 字	5.65	2.02	5.57	2.08	4.73	2.38
F	5.62 **		3.04 *		1.84	
TUKEYの検定	1-2 1-3		1-3			

注) TUKEYの検定で、1はピアノ・エレクトーン、2は珠算、3は習字を意味する。以下同様

*……P<.05, **……P<.01 以下同様

表 5 練習の積極性 (%)

		自分	強制	ない
ピアノ・エレクトーン	初期	57	38	5
	終期	38	21	41
珠 算	初期	63	28	9
	終期	27	34	39
習 字	初期	55	37	9
	終期	39	32	29

技能学習の動機づけ

表6-1 初期段階の正の動機づけ要因(数値は平均値)

	先生の 賞賛	親の 賞賛	試合	級向上	面白さ	技向上	仲間	先生の 期待	親の 期待	他
ピアノ・ エレクトーン	0.76	0.54	0.56	0.40	1.07	0.70	0.26	0.13	0.19	0.06
珠算	0.45	0.26	0.24	1.35	0.49	0.73	0.17	0.11	0.14	0.04
習字	0.87	0.58	0.61	1.05	0.42	0.61	0.15	0.09	0.16	0.09
F	15.11 **	11.98 **	15.98 **	63.94 **	38.05 **	1.18	2.65	0.54	0.52	0.86
TUKEYの検定	1-2 2-3	1-2 2-3	1-2 2-3	1-2 1-3 2-3	1-2 1-3					

表6-2 初期段階の負の動機づけ要因(数値は平均値)

	先生の 叱責	親の 叱責	試合	級停滞	つまら なさ	技不伸	仲間の 軽蔑	親の 強制	先生の 強制	他
ピアノ・ エレクトーン	0.49	0.41	0.03	0.17	0.36	0.56	0.01	0.47	0.28	0.16
珠算	0.25	0.09	0.01	0.45	0.46	0.40	0.03	0.14	0.18	0.11
習字	0.27	0.17	0.01	0.28	0.51	0.51	0.01	0.28	0.15	0.09
F	6.89 **	16.03 **	1.19	8.88 **	2.51	2.44	1.50	12.95 **	2.83	1.15
TUKEYの検定	1-2 1-3	1-2 1-3		1-2 2-3				1-2 1-3		

は「他の子が習っていたから」が「親の方針」を越えている。

B5は表4に平均と標準偏差を示した。ピアノ・エレクトーンの場合、練習初期の楽しさの程度が他に比べて高い。中期、終期は減少するが中期、終期の間に差はなく、終期の時点の楽しさは相対的には高い。珠算は初期と中期の変化は少なく、終期になると激減するという特徴をもつ。習字は初期から終期までの変化の幅が小さいという特色がある。

3種類の技能学習間での相違は表4に示したとおりであり、初期ではピアノ・エレクトーンが楽しさの程度が高いという特徴がある。しかし、これは中期には逆転し、習字よりも楽しさの程度は有意に低くなることがわかる。

B6とB9の結果は表5に示した。どの学習でも初期の段階では自分からすすんで練習するが半数を越えているが、終期には40%以下になる。中でも珠算が初期と終期の練習ぶりの相違が特に大きいように思われる。

B7とB8については結果を表6-1、表6-2に示した。数値は0、1、2と得点化した場合の平均値である。初期段階でやる気をおこさせるものは各技能学習で異なる。各技能学習間での差の検定も表に併せて示されている。ピアノ・エレクトーンでは「やること自体のおもしろさ」が高い。しかし、「グレードの向上」は低い。逆

に珠算では「やること自体のおもしろさ」は低い、「グレードの向上」は高い。また、珠算と習字の相違は先生や親の賞賛がやる気につながるものが珠算では少ないことである。達成の水準が客観的に明確であるためかもしれない。

やる気をなくさせる要因としてはピアノ・エレクトーンでは相対的に高いものとして「先生からの叱責」、「親からの叱責」、「親による練習の強制」などがあげられる。珠算ではやる気がおこる場合と対応して「グレードの停滞」が相対的に重要な要因になっていると考えられる。

B10およびB11の終期の学習の正・負の動機づけ要因の結果は表7-1および表7-2に示すとおりである。まず、正の動機づけ要因についてピアノ・エレクトーンでは「技能が向上すること自体の喜び」が相対的に高い。一方、珠算や習字では「グレードの向上」が一番関係しているようである。負の動機づけ要因に関してはピアノ・エレクトーンでは「技能の向上しないこと自体のつまらなさ」が、珠算では「グレードの停滞」が、習字では「やること自体のつまらなさ」が相対的に高い。

B13の結果は表8に示されているがどの技能学習でも「他のことで忙しかったため」というのが一番高く、次に「いやになったから」となっている。

B14は塾をやめてからも自分だけで練習しようとするかを問うたものであるが4段階と考え、程度の高い順に

資 料

表7-1 終期段階の正の動機づけ要因 (数値は平均値)

	先生の 賞 賛	親の 賞 賛	試合	級向上	面白さ	技向上	仲間	先生の 期 待	親の 期待	他
ピアノ・ エレクトーン	0.34	0.18	0.34	0.24	0.49	0.68	0.12	0.16	0.11	0.07
珠 算	0.15	0.10	0.35	0.94	0.17	0.40	0.11	0.12	0.11	0.03
習 字	0.46	0.22	0.50	0.78	0.25	0.52	0.15	0.13	0.09	0.01
F	11.96**	3.52*	2.90	35.59**	47.16**	6.09**	0.42	0.29	0.21	2.46
TUKEYの検定	1-2 2-3	2-3		1-2 1-3	1-2 1-3	1-2				

表7-2 終期段階の負の動機づけ要因 (数値は平均値)

	先生の 叱 責	親の 叱責	試合	級停滞	つまら な さ	技不伸	仲間の 軽 蔑	親の 強制	先生の 強 制	他
ピアノ・ エレクトーン	0.28	0.16	0.05	0.26	0.43	0.68	0.00	0.26	0.19	0.25
珠 算	0.12	0.07	0.02	0.53	0.52	0.45	0.01	0.01	0.12	0.21
習 字	0.17	0.08	0.02	0.41	0.61	0.43	0.00	0.21	0.10	0.16
F	4.18*	2.65	1.08	7.00**	2.24	6.45**	1.50	5.34**	2.06	1.38
TUKEYの検定	1-2			1-2		1-2 1-3		1-2		

表8 技能学習をやめる理由 (%)

	忙しい	いや	親から	下手	他
ピアノ・エレクトーン	65	23	37	1	7
珠 算	50	22	1	10	26
習 字	58	26	0	4	22

表9 技能向上に影響する要因 (平均値)

	本人の 能 力	本人の 努 力	親の指導	先生の 教 え	先生の 人 柄	塾 の 雰 囲 気	仲 間 の 技 能 水 準	本人の 興 味 関 心	運
ピアノ・ エレクトーン	0.64	1.33	0.14	0.71	0.56	0.16	0.11	0.34	0.03
珠 算	0.64	1.21	0.04	0.56	0.31	0.45	0.19	0.86	0.13
習 字	0.65	1.27	0.11	0.85	0.51	0.48	0.19	0.98	0.10
F	0.22	0.82	4.35*	6.87**	7.07**	14.56**	1.47	14.39**	3.97*
TUKEYの検定			1-2	2-3	1-2 2-3	1-2 1-3		1-2 1-3	1-2

表10 学習の意義 (%)

	ピ ア ノ ・ エ レ ク ト ー ン	珠 算	習 字
時間と金の無駄使い	3.4	7.5	5.5
意 義 が な い	22.6	28.0	23.0
得たものがあった	29.5	34.6	32.2
学習自体が有意義	65.0	60.0	72.0

技能学習の動機づけ

4, 3, 2, 1と点数化すると平均はピアノ・エレクトーンが2.84, 珠算が1.38, 習字が1.72となった。先の分析でピアノ・エレクトーンは内発的動機づけの係わりが強いことが示唆されたがこれはそれを裏づける結果といえよう。

B15の結果は表9に示すとおりである。どの技能学習でも技能向上に影響する最も重要な要因としては「本人の努力」があげられる。しかし、その次に重要と思われる要因はそれぞれに異なる。ピアノ・エレクトーンでは「先生の教え方」が、珠算では「本人の興味・関心」が、また習字ではその両方が相対的に重視された。

B16に関しては技能学習をしたことに対しておおよそ肯定的な評価がなされているといえる（表10）。相対的にはピアノ・エレクトーンの学習が最も有意義だったと思われるしており、珠算が最も有意義でなかったと考えられているようである。

II. 動機づけ要因の分析

ここでは特に動機づけ要因であるB7, B8, B10, B11に注目して分析する。先の分析では動機づけ要因は粗データのまま扱ったがここでは方法で既にふれたように概念的に4つの要因に分類し、各技能学習ごとの動機づけ要因の相違、学習初期と終期の相違などをまず、検

討する。その後、これらのまとめられた要因と他の項目との関係を見ることにする。

(1) 動機づけ要因の平均値の比較

4要因に分類して平均と標準偏差を算出したもの、および各技能学習間での検定結果が表11である。まず、ピアノ・エレクトーンの初期の正の動機づけ要因をみると相対的に内発性要因が高く、競争要因が低いといえる。珠算と習字ではピアノとは逆に内発性要因が低く、競争要因が高い、また、珠算では正のフィードバック要因はピアノ・エレクトーンおよび習字に比べて相対的に低い。次に、初期の負の動機づけ要因に関してはピアノ・エレクトーンは珠算や習字に比べて負のフィードバック要因や強制要因が関与しているとみられている。逆に、負の競争要因はピアノ・エレクトーンではあまり重視されていない。

終期の正の動機づけ要因をみてみよう。ピアノ・エレクトーンではいずれも初期の場合に比べて低い値となっているが相対的に正の内発性要因と期待要因の減少の幅は小さい。同じように珠算と習字では正の競争要因と期待要因の減少は相対的に小さい。各技能学習間には初期の場合と類似した有意差がみられる。負の動機づけ要因の変化はあまり明確でない。ここでもピアノ・エレクト

表11 動機づけ要因における各技能の平均とSD

			1 ピアノ・エレクトーン		2 珠算		3 習字		F	TUKEYの検定
			平均	SD	平均	SD	平均	SD		
初期	正	フィードバック	4.57	1.70	3.88	1.18	4.61	1.50	15.34 **	1-2 2-3
		競争要因	2.97	1.20	3.58	1.03	3.67	1.25	17.64 **	1-2 1-3
		内発性要因	3.77	1.26	3.22	1.11	3.04	1.67	16.5 **	1-2 1-3
		期待要因	2.32	0.83	2.57	0.65	2.24	0.69	0.52	
	負	フィードバック	3.91	1.29	3.37	0.83	3.44	0.86	14.50 **	1-2 1-3
		競争要因	2.21	0.51	2.45	0.76	2.29	0.59	7.00 **	1-2 1-3
		内発性要因	2.91	1.10	2.86	0.90	3.02	0.99	1.29	
		強制要因	2.75	0.91	2.32	0.68	2.44	0.86	11.91 **	1-2 1-3
終期	正	フィードバック	3.64	1.30	3.36	0.80	3.83	1.33	8.31 **	2-3
		競争要因	2.57	0.90	3.28	1.20	3.27	1.31	19.53 **	1-2 1-3
		内発性要因	3.46	1.40	2.57	1.00	2.76	1.08	27.44 **	1-2 1-3
		期待要因	2.27	0.80	2.24	0.60	2.23	0.64	0.19	
	負	フィードバック	3.45	0.98	3.21	0.60	3.25	0.66	4.92 **	1-2 1-3
		競争要因	2.31	0.64	2.56	0.81	2.42	0.73	5.10 **	1-2
		内発性要因	3.12	1.14	2.96	1.04	3.04	0.97	0.94	
		強制要因	2.45	0.97	2.21	0.54	2.32	0.69	5.14 **	1-2

資 料

表12 各要因の初期と終期間の相関, 正・負要因間の相関

			ピ ア ノ ・ エレクトーン	珠算	習字
正	初期 * 終期	フィードバック	.561 **	.519 **	.524 **
		競争要因	.355 **	.478 **	.446 **
		内発性要因	.159	.418 **	.427 **
		期待要因	.641 **	.498 **	.473 **
負	初期 * 終期	フィードバック	.607 **	.639 **	.747 **
		競争要因	.109	.333 **	.479 **
		内発性要因	.322 **	.311 **	.507 **
		強制要因	.484 **	.615 **	.619 **
初期	正 * 負	フィードバック	.357 **	.223 **	.293 **
		競争要因	.142	-.003	.058
		内発性要因	-.077	.148 *	-.033
		期待・強制	.227 **	.149 *	.248 **
終期	正 * 負	フィードバック	.135	.116	.201 *
		競争要因	-.102	-.030	.041
		内発性要因	-.248 **	-.147 *	-.264 **
		期待・強制	.101	.026	.081

ンの負のフィードバックは珠算や習字のそれよりも重視されている。

(2) 動機づけ要因の相関

各要因の初期と終期の相関, 正・負要因の相関をみたものが表12である。まず, 初期と終期の相関をみてみると正負どの要因でもかなり高い係数が示されている。つまり, 概して学習初期でも終期でも動機づけの増減に関係すると思われる要因は相対的に個人内ではあまり変化していないとみることができる。どの技能学習でも特に正・負のフィードバック要因や期待・強制要因で一貫しているといえる。周囲の要因の認知は変化しがたいということであろう。有意な相関を示していないのはピアノ・エレクトーンの内発性要因と負の競争要因である。ピアノ・エレクトーンの場合, 学習の初期と終期では学習の困難度や練習の性質がかなり異なってくるためかもしれない。

正・負の動機づけ要因の相関に関しては, まず, 初期の場合, どの技能学習においても正・負のフィードバック要因と期待・強制要因で正の有意な相関が認められるという特徴がある。つまり, 学習の初期では先生や親の賞賛が動機づけを高めると考える人は同時に彼らからの叱責が動機づけを低下させると考えているのである。ま

た, 同じようにかれらからの期待が動機づけを高めると考える人は強制が動機づけを低めるとも考えているのである。しかし, この傾向は終期ではあまり明確でない。終期で共通にみられるのは内発性に関する負の相関である。これは, 正の動機づけ要因として内発性のものを高く評価する人ほど負の内発性の要因を低く評価することを意味している。これは論理的に当然のように思えるが, この相関が初期に有意でなく, 終期に有意になったことに意味がある。終期には内発的動機づけのもつ意味がより明確化してくるようと思われる。

(3) 学習期間と動機づけ要因との関係

学習期間の長さは動機づけの高さの指標とも考えられる。そこで, 学習期間と動機づけ要因の間の相関関係をみた結果が表13である。ピアノ・エレクトーンでは初期の正のフィードバック要因および後期の正の内発性要因と学習期間の間に有意な相関がみられる。初期の動機づけを高めるのに賞賛や承認が関係していたと思っている人ほど長く学習していることになる。また, 学習後期で内発性要因が動機づけを高めていたとしている人ほど長く学習していたことになる。

珠算や習字でも初期の正のフィードバック要因は有意な相関が認められる。他に初期, 終期とも正の競争要因

技能学習の動機づけ

表13 学習期間と各要因の間の相関係数

			ピアノ・ エレクトーン	珠算	習字
初期	正	フィードバック	.271 **	.145 *	.208 **
		競争要因	.151	.186 *	.282 **
		内発性要因	.052	.283 **	.127
		期待要因	.123	.059	.127
	負	フィードバック	.153	.024	.014
		競争要因	-.120	-.104	-.036
		内発性要因	-.005	-.141 *	-.059
		強制要因	-.036	.006	.040
終期	正	フィードバック	.099	.049	.116
		競争要因	.115	.191 *	.208 **
		内発性要因	.315 **	.176 *	.330 **
		期待要因	.091	.074	.170 *
	負	フィードバック	-.081	.038	.090
		競争要因	-.082	.007	-.082
		内発性要因	.057	-.070	-.214 *
		強制要因	-.123	-.056	-.072

との間には有意な正の相関がみられた。つまり、競争が技能学習の動機づけを高めているとみている人ほど珠算や習字の学習を長期間継続したのである。また、珠算では正の内発性要因との間には初期においても有意な相関が認められた。さらに初期の負の内発性要因との間には負の有意な相関が示された。習字では終期の内発性要因、期待要因との間に正の有意な相関が、負の内発性要因との間には負の相関が認められた。

学習期間は学習の上達が早い者ほど早くやめてしまうということを考えると必ずしも動機づけの強さを表しているとはいえないかもしれないがグレードの限界に達することはまず考えられないので動機づけの強さと関係するとみて間違いのないであろう。しかし、珠算などは2、3級を暗黙裡の到達目標として学習している子どもも多いように思われる。一方、習字の方はグレードの基準も不明確だし、常識的にみてこの程度ならまずまずの字がかかるようになったことを意味するといった線がない。その点で珠算の場合は初期の動機づけ要因の予測力が高く、習字の場合は終期の動機づけ要因の予測力が高いのは興味深い。さらに、この分析で興味深いのは学習初期での賞賛や承認といったいわば外発的動機づけがどの技能学習でも学習年数と関係していたことである。

(4) 練習の楽しさと動機づけ要因

まず、初期の練習の楽しさを基準変数、初期の8つ動機づけ要因を予測変数として重回帰分析をした。算出された標準偏回帰係数は表14のとおりである。どの技能学習においても正の内発性要因の回帰係数が有意であることが特徴的である。やること自体のおもしろさや技能が向上すること自体の喜びがやる気をおこせるとみている人ほど練習が楽しかったと感じていることになる。他にはピアノ・エレクトーンでは正のフィードバック要因が、習字では強制要因が有意であった。

終期の練習の楽しさを規定する要因はあまり明確ではない。珠算で正の競争要因が、習字で強制要因が有意となっている。終期では珠算についてはグレードが上がらないような場合には楽しくなく、習字では人から練習を強制されるような場合、楽しくないといえよう。

(5) 練習の積極性と動機づけ要因

初期の練習の積極性を基準変数、初期の動機づけ要因を予測変数とした場合の標準偏回帰係数は表15のとおりである。有意な係数はピアノ・エレクトーンの場合、正のフィードバック要因と正の内発性要因および強制要因であった。珠算では正の競争要因、正の内発性要因、期待要因および負の内発性要因であった。習字は正の内発

資 料

表14 楽しさを規定する要因

動機づけ要因	初 期			後 期			
	ピ ア ノ ・ エレクトーン	珠算	習字	ピ ア ノ ・ エレクトーン	珠算	習字	
正	フィードバック	.206 **	.014	.073	-.066	-.107	-.072
	競争要因	.028	.040	-.007	.107	.196 *	-.010
	内発性要因	.252 **	.425 **	.272 **	-.125	.016	.049
	期待要因	.027	-.127	.098	.106	-.067	.085
負	フィードバック	-.103	-.037	-.135	-.089	-.048	-.062
	競争要因	-.126	-.031	-.024	-.062	.068	-.005
	内発性要因	-.028	-.112	-.059	.135	.122	.065
	強制要因	-.067	-.000	-.237 **	.143	-.058	-.221 **

表15 練習の積極性を規定する要因

動機づけ要因	初 期			後 期			
	ピ ア ノ ・ エレクトーン	珠算	習字	ピ ア ノ ・ エレクトーン	珠算	習字	
正	フィードバック	.222 **	.016	.100	.032	.080	.134
	競争要因	.012	.161 *	-.065	.057	.220 **	.157 *
	内発性要因	.477 **	.372 **	.232 **	.525 **	.284 **	.266 **
	期待要因	-.040	-.152 *	.030	.066	.105	.023
負	フィードバック	-.058	-.120	-.009	-.057	-.073	.114
	競争要因	-.093	.047	.007	.005	-.075	-.026
	内発性要因	-.016	-.163 *	-.131	-.131	-.140 *	-.179 *
	強制要因	-.182 *	-.091	-.118	.021	-.073	-.087

性要因のみが有意であった。

終期の練習の積極性を基準変数、終期の動機づけ要因を予測変数とした場合はピアノ・エレクトーンで正の内発性要因、珠算で正の競争要因と正の内発性要因および負の内発性要因が有意であった。習字でも珠算と同じ要因でその係数が有意であった。

どの技能学習においても、初期も終期も内発性要因の高低が練習の積極性を規定しているといえる。しかし、珠算や習字はピアノ・エレクトーンと違って、特に終期では競争要因も重要な規定因となっているといえよう。

(6) 塾をやめた後の自発的練習と終期の動機づけ要因

B14の質問、塾へいくのをやめた後の自発的練習を基準変数、終期の動機づけ要因を予測変数にして上と同様な重回帰分析を試みた(表16)。検定の結果、ピアノ・エレクトーンでは正の内発的要因が、習字では正・負の内発性要因、期待要因が有意であった。しかし、珠算に

表16 塾をやめた後の自発的練習を規定する要因

		ピ ア ノ ・ エレクトーン	珠算	習字
正	フィードバック	.161	-.109	-.066
	競争要因	.003	.127	.029
	内発性要因	.249 **	.086	.253 **
	期待要因	-.084	.151	.196 **
負	フィードバック	-.151	.149	.095
	競争要因	-.102	.041	.034
	内発性要因	-.123	-.143	-.165 *
	強制要因	.066	.051	-.080

関してはどの動機づけ要因にも有意な標準偏回帰係数は認められなかった。先にみたように珠算では塾をやめた後で自発的に練習する人がほとんどないということが関係していよう。

討 論

本研究では現在の日本での代表的なお稽古ごとであるピアノ・エレクトーン、珠算、習字を取り上げ、回想的な方法によってそれらへの取り組み方を動機づけを中心にして尋ねた。

各技能学習ごとにいくつかの特徴が明らかにされた。ピアノ・エレクトーンは学習が開始される時期も終了する時期も個人差の幅が大きいのに対して珠算では学習する時期がほぼ同一であることが示された。また、ピアノ・エレクトーンは最初、やること自体が面白かったり、自分の意志で習い始める場合が相対的に多いことも関係して学習を楽しみと考える傾向が強かったが一定期間後にはその楽しさは急激に低下していた。一方、習字は最初はそれほど楽しいと感じていないようであるが時間が経過しても楽しさの程度が落ち込むようになるということとはなかった。実際、ピアノ・エレクトーンは毎週、家でかなりの練習をしていかねばならないのに対して習字の場合はそのような準備があまり必要でないということもこの結果に関係しているように思われる。珠算の場合は終期に楽しさの程度は急激に低下するがこれは技能の向上が一定レベルまでいくと高原状態に達することが級の停滞ということと他の技能以上に明確化するためかもしれない。

動機づけの問題に関しては一般的にいえば、技能学習の習得においても内発的動機づけの高低が重要な役割を果たしていることが示唆された。これはグレードが明示されないピアノ・エレクトーンの学習で特に顕著に思われた。一方、グレードが明示される珠算や習字では競技会への参加、グレードの向上といった競争的な動機づけ

に支えられる面がかなりある。たとえば、練習の積極性を規定する要因の分析や学習期間との関係の分析ではそれが裏づけられた。また、当初予想したように特に練習の初期では先生の賞賛や親の賞賛も重要に思われる。これらは、珠算に比べてピアノ・エレクトーンや習字で高いがこれは学習者の年齢が前者よりも後者の方が低いことに関係しているのかもしれない。このような初期のフィードバック要因が高いと学習期間も長く持続していることがすべての技能学習で示された。特にピアノ・エレクトーンではこの要因は練習の積極性や楽しさとも関係した。

本研究のように回顧的にえられたデータについてはそれほど信頼性があるのかといった問題もある。10年以上も前のことを思い出す場合もあり、その時の認知や感情が現在まで純粋に保持されているとは考えがたい。現在学習中の児童・生徒を対象にした研究が必要なことは言うまでもない。

引 用 文 献

杉江修治・伊藤 篤 1986 学習塾 けいこごとへの子どもの意識 ―なぜ通うのか、なぜ、通わないのか、止めたのか― 中京大学教育論叢 第27巻, 第3号, 461-511.

杉江修治・伊藤 篤 1989 学習塾, けいこごとへの子どもの意識Ⅱ ―小学校4年生(愛知県)の実態― 珠算春秋 69号, 145-185.

(1992年8月13日 受稿)

付 表

技能学習に関する調査

この調査は技能学習（ピアノ、バイオリン、珠算、習字、絵画等）がどのようにしてなされるのかを検討する目的でなされるものです。この調査結果は全体として処理し、一人ひとりについて云々するものではありません。過去のことについての質問も多く含まれていますができるだけ思い出し、正直に答えて下さい。

名古屋大学教育心理学教室

A. あなたの属性について尋ねます。どれかを○で囲んで下さい。

1. 所属（中学生・高校生・大学生・その他）
2. 性別（男性・女性）

B. まず、子どもの頃に習った技能について尋ねます。あなたが特別に塾や専門のスクールへ行って学習し、現在は既にやめている技能学習について答えて下さい。もし、あなたが1度もそのような塾やスクールへ通った経験がないならば別の質問に答えて下さい。

1. あなたが塾やスクールで身につけようとした技能は何でしたか。次のうちあなたが少しでも学習したものはすべて○をつけて下さい。もし、そこがないのならその他の所にその技能を書いて下さい。

- ①絵画 ②ピアノ・エレクトーン ③バイオリン ④珠算 ⑤習字 ⑥水泳
⑦その他（ ）

2. 以上のうちまず、あなたの記憶が比較的鮮明などれか1つについて尋ねたいと思います。1つを選択して下さい。（ ）

3. いつ頃からいつ頃まで練習しましたか。

（ ）から（ ）まで

4. それを習い始めたのは主にどういう理由によると思いますか。次のうちから選んで該当するものに○をつけて下さい。

- ①親の方針 ②自分の意志 ③他の子が習っていたから ④兄や姉が習っていたから
⑤その他（ ）

5. 練習の楽しさの程度は時間的経過とともにどのように変化しましたか。下に折れ線グラフのかたちで表現してみてください。



6. その技能学習の初期のあなたの練習ぶりを下から選んで下さい。

- ①自らすすんで練習する機会が多かった ②強制されて仕方なく練習する機会が多かった ③練習しなかった

7. その技能習得の初期に、練習へのやる気をおこさせたものは何だったと思いますか。次のうち非常にやる気をおこさせたものには◎、少しやる気をおこさせたものには○をつけて下さい（やる気と関係ないものについては何もつけないで下さい）。

- ①先生からの賞賛 ②親からの賞賛 ③コンクール、競技会、試合への参加 ④グレード（級）の向上
⑤やること自体のおもしろさ ⑥技能が向上すること自体の喜び ⑦仲間からの承認
⑧先生からの期待 ⑨親からの期待 ⑩その他（ ）

技能学習の動機づけ

8. その技能習得の初期に、練習へのやる気をなくさせたものは何だったと思いますか。次のうちに非常にやる気をなくさせたものには◎、少しやる気をなくさせたものには○をつけて下さい（やる気と関係ないものには何もつけないで下さい）。
- ①先生からの叱責 ②親からの叱責 ③コンクール、競技会、試合への参加 ④グレード（級）の停滞
⑤やること自体のつまらなさ ⑥技能が向上しないこと自体のつらさ ⑦仲間からの軽蔑
⑧親による練習の強制 ⑨先生による練習の強制 ⑩その他（ ）
9. その技能学習の終期のあなたの練習ぶりを下から選んで下さい。
- ①自らすすんで練習する機会が多かった ②強制されて仕方なく練習する機会が多かった ③練習しなかった
10. その技能習得の終期に、練習へのやる気をおこさせたものは何だったと思いますか。次のうち非常にやる気をおこさせたものには◎、少しやる気をおこさせたものには○をつけて下さい（やる気と関係のないものには何もつけないで下さい）。
- ①先生からの賞賛 ②親からの賞賛 ③コンクール、競技会、試合への参加 ④グレード（級）の向上
⑤やること自体のつまらなさ ⑥技能が向上しないこと自体のつらさ ⑦仲間からの軽蔑
⑧先生からの期待 ⑨親からの期待 ⑩その他（ ）
11. その技能習得の終期に、練習へのやる気をなくさせたものは何だったと思いますか。次のうち非常にやる気をなくさせたものには◎、少しやる気をなくさせたものには○をつけて下さい（やる気と関係のないものには何もつけないで下さい）。
- ①先生からの叱責 ②親からの叱責 ③コンクール、競技会、試合への参加 ④グレード（級）の停滞
⑤やること自体のつまらなさ ⑥技能が向上しないこと自体のつらさ ⑦仲間からの軽蔑
⑧親による練習の強制 ⑨先生による練習の強制 ⑩その他（ ）
12. やめる時のグレード（級）は何でしたか。
（ ）
13. どうしてその塾・スクールへ通うのをやめましたか。該当するものに○をうって下さい。
- ①他のことで忙しくなったため ②いやになったから ③親にやめるように言われて
④これ以上うまくならないと思ったから ⑤その他（ ）
14. その塾・スクールをやめてから自分だけでそれを練習しようとしたことはありますか。
- ①しばしば練習した ②時々練習した ③ほとんど練習しなかった ④全く練習しなかった
15. この技能の向上はどのような要因と関係が深いと思いますか。次の要因について関係が深いと思うものには◎、やや関係があると思うものには○をつけて下さい。
- ①本人の能力 ②本人の努力 ③親の指導 ④先生の教え方 ⑤先生の人柄 ⑥塾の雰囲気
⑦仲間の技能水準 ⑧本人の興味・関心 ⑨運
16. この技能学習をしたことを現在どう思っていますか。
- ①時間とお金の無駄使いであった ②後悔はしていないが特に有意義だったとは思えない
③練習を通して間接的にえられるものはあった ④技能を学習したこと自体大いに有意義であった

ABSTRACT

Motivation for Skill Learning

Toshihiko HAYAMIZU and Yiping PAN

This study focused on motivation for skill learning outside formal schooling such as playing piano, working an abacus and practicing calligraphy.

In a new questionnaire made by us, approximately seven hundreds university students as our subjects were asked to take notice of one skill leaning that they could recollect relatively clearly. Then, they were requested to respond to various questions about the skill learning, including motivational factor, the length of training period, joy of learning and enthusiasm in practice and etc.

Main results wear as follows :

1. In every skill learning, the length of training period, joy of learning and enthusiasm in practice as indexes of strength of motivation were determined by intrinsic factor like task involvement ;
2. In the case of learning abacus calculation and calligraphy, not only intrinsic but also competitive factors were related to motivation because those who leaned such skills were graded often ;
3. Social approval was important to motivate skill learning, especially at the beginning of training period.